

# 映像新聞

平成23年(2011年) 12月19日 第2028号

大家族をテーマにしたドキュメンタリー番組を多く制作している演出家の坂口香津美氏(スーパースワウス)は、3作目となる映画「ネムリユスリカ」を完成させた。

坂口氏は、この作品で監督・脚本・撮影を務め、性暴力被害者の女性とその事件をきっかけに生まれた娘を中心に、家族の喪失と再出発を描写。「性暴力被害者から話を聞いた経験と、自身の妹と父を立て続けに亡くしたことから、乾季で周囲が死滅しても生存し、次の雨で蘇生する虫ネムリユスリカの姿を模そうと思った」と話す。

## 映画「ネムリユスリカ」が完成 家族の喪失と再出発を描写 撮影にはソニー製XDCAM EX使用



坂口監督

家族が暮らす荒川鉄橋のたもとでは、地明かりを基本に、夜川向この町の明かりがきらめく様子を見事なパンフォーカス

「番組製作者として、自分の小さな血管と自分自身をテレビに注入する。そこに作品を作り続けてきたが、表現しきれないものがおののふつにたまると、そこでドキュメンタリーから一歩踏み出し、人間の生命力を書いた」と語る。床を這うような低いアングルから一家の姿を映した。

家族が暮らす荒川鉄橋のたもとでは、地明かりを基本に、夜川向この町の明かりがきらめく様子を見事なパンフォーカス

で描いた。撮影は基本的に肩振り、俳優の生理に合った形でリアリズムを生み出すなど、ドキュメンタリーで積み上げた手法も活用した。同作は2013年2月3日にかけて、国際交流基金主催の巡回上映プログラムとして、ロンドン、シエナ、フィレンツェなど4都市で上映されることになっている。

2011年(平成23年) 11月18日(金曜日) ©中日新聞東京本社2011 (日刊)

# ●ネムリユスリカ 性犯罪 家族の絶望と再生

人は何のため、誰のために生きるのか。性犯罪の被害を受ける家族の絶望と再生がテーマ。十五歳の少女、琴野はハリエのビンスの帰りに、道を尋ねてきた若い男にレイプされる。琴野は身ごもり、夏芽を産む。十七年後、成長した夏芽は母の琴野と、体が不自由で介護が必要な祖父、権と三人で車中生活を送っている。事件のショックで言葉失った琴野はクラブでダンスパーティーをして生計を立てている。ノブ(遊牧民)のように生きる三人の目的はただひとつ。「あの男」を捜すことだった...



19日公開。イメーショオラム

監督は、引きこもりの青年をモチーフにした「青の塔」の坂口香津美。1時間36分。うも悲しく苦しいのか。(主)

東京新聞 夕刊



2011年(平成23年)

11月19日

土曜日

### 性暴力考える シンポジウム

21日、青山学院大

「ACTION 女性ど  
ろしで話そう、性暴力被害  
について考え、行動するた  
めのシンポジウム201  
1」が21日、青山学院大の  
青山キャンパス(渋谷区渋谷4丁目)である。性暴力  
被害者と家族を描いた映画  
「ネムリエスリカ」の公開  
に合わせて、監督の坂口香  
津美さんが性暴力被害者支  
援に関わる専門家らと共に  
開

「ネムリエスリカ」は性

暴力を受けた女性から生ま  
れた少女と、被害者でもあ  
る母親らその家族の物語。  
映画自体はフィクションだ  
が、シンポジウムでは性暴  
力に対する理解を深め、支  
援の大切さについて考えよ  
うと、被害体験の手記を出  
版した小林美佳さんや被害  
者支援都民センターの相談  
員、性暴力被害者の裁判を  
支援する弁護士らが話し合  
う。シンポジウムは青山キ  
ャンパス11号館で午後7時  
9時。参加無料で直接会場  
へ。問い合わせはシンポを  
運営するスーパーサウルス  
(03・3・5551・5553  
0)へ。